

油絵具の透明色

透明色を活かす技法

色によって透明・不透明の差が大きく、透明色と呼ばれる色が非常にたくさんあるのが油絵具の特徴です。15世紀ごろ、西洋では油彩画の技法が確立されるとともに、それまで主流だったテンペラに代わってゆきました。油彩画は不透明で明るい画面のテンペラとは対照的に、透明感のある深い色調をもっています。同じ顔料を用いても油彩画面のほうが透明になるのは、固着材である油の屈折率が大いに関わっているからです。透明感のある深い色相が得られたことで、表現の幅は飛躍的に広がりました。それが、油彩画を絵画の王座に据えさせた理由のひとつです。

今日のいわゆる油絵にみられる、不透明な絵具を盛り上げて描く技法は近代以降のもので、それまでは、ルネサンス〜バロック期の油彩画に特徴的に見られる、透明な層を塗り重ねる技法が主流でした。中世当時の油絵具は現在と異なって、軟らかくて曳き(粘り)が強く、盛り上げて描くことは簡単ではありませんでした。その物性が、透明層を塗り重ねて制作する技法を生み出したともいえますが、はじめに白と黒だけで描いておき、乾いてからそれぞれ透明な固有色を重ねて彩色する「グリザイユ」は、油絵具の本質的な透明性を活かした伝統的な技法です。

ホルベインの透明色

ホルベイン油絵具で、それぞれの色ごとの透明・不透明をみてみましょう。透明色は、厚く盛り上げるとほとんど黒に見えてしまふものも多く、その美しさを十分に活かしきれません。たつぷりの画用液で薄めて不透明色の上に塗り重ねるか、白などを混

ぜて使います。白は本質的に不透明であり、しかも最も明度の高い色でもあるので、これを混ぜることによって、暗い透明色を明るい不透明色にできます。

【赤】クリムソンレーキやローズマダーが透明色の代表です。パーミリオンやカドミウムレッドは不透明色です。透明な赤を青に重ねて紫を表現したり、不透明な赤に透明な赤、たとえばカドミウムレッドの上にクリムソンレーキを薄く塗り重ねて、独特の深みのある赤をつくるといった使い方をします。

【黄】インディアンイエロー、オーレオリンが代表的な透明色です。語源が「金色」のオーレオリンなど、濃密な空気や神々しさの表現によく使われます。イエローオーカー(ナチュラル)はどちらかといえば不透明群に属するのですが、レンブランドはこれを透明色として用いて金色を表現していました。

【緑】ビリジャンやサップグリーンが透明色です。カドミウム系、パーマネント系のグリーンは不透明色です。

【青】プルシャンブルー、ハイドレンジャブルー、ウルトラマリンが透明色。セルリアンブルーは不透明色。コバルトブルーはその中間的な透明度です。

【茶】ブラウンピンクという透明色があります。ホルベイン油絵具にはレギュラーのシリーズとは別に、「透明カラー」という11色のシリーズがあります。これは透明値72.5(レギュラーのクリムソンレーキは27、ウルトラマリンブルーだと28〜30)で、透明技法を前提として発売されている製品です。



ホルベイン油絵具 透明カラー

※透明値:絵具の透明度を機器測定による数値(黒白下地上での色差、ΔE)で表わしたものを、ホルベインでは25.0以上を透明色としています。

ホルベイン油絵具のチューブに記載されている透明性記号 ○…透明色 ①…半透明色 ●…不透明色



ホルベイン絵具

www.holbein-works.co.jp

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.072(985)1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)

ホルベイン工業株式会社 東京都豊島区東池袋2-18-4 TEL.03(3983)9251 大阪府東大阪市上小阪1-3-20 TEL.06(6723)1554